



Data 2022-61

監督・脚本: ジュリー・テイモア
 原案: グロリア・スタイネム『My Life on the Road』
 出演: ジュリアン・ムーア/アリシア・ヴィキャンデル/ティモシー・ハットン/ジャネール・モネイ/ベット・ミドラー/ロレイン・トゥーサント

👁️👁️ みどころ

小学生の頃から偉人伝が大好きだった私には、伝記映画は勉強の宝庫！そう考えている。そこに作者や監督のバイアスがかかるのは当然だが、それを見抜くのも勉強のうちだ。

しかして、グロリア・スタイネムって一体ダレ？ “世界を動かした女たち” は多いが、1960年から70年代のアメリカに、こんな女性解放運動の活動家がいたことをはじめて発見！

伝記映画の旗手、山田火砂子監督のそれはオーソドックスだが、本作は4人の女優がリレー方式でグロリアを演じるところがミソ。1台のバスに4人が同時に乗り合わせるのは映画特有の演出だが、そこに違和感は全くなし！それはなぜ？キーワードを旅(ロード)と設定した演出の妙味をしっかりと味わいたい。

—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————*

■□■伝記映画は勉強の宝庫！グロリア・スタイネムとは？■□■

私は小学生の時に多くの“偉人伝”を読んだが、その主人公はほとんどが男性だった。近頃は女性を主人公とする偉人伝も多くなったが、山田火砂子監督は伝記映画ばかりを作っている珍しい女性監督だ。山田火砂子監督作品で私が最初に観たのは、『母—小林多喜二の母の物語』(17年) (『シネマ40』未掲載)。続いて『一粒の麦 荻野吟子の生涯』(19年) (『シネマ46』341頁)を観たことで、日本の女医第1号が「埼玉県の三大偉人」の一人とされている荻野吟子だということを知ることができた。伝記映画は勉強の宝庫だ。もっとも、直近の『われ弱ければ 矢嶋楯子伝』(22年)は見逃したままだが、さて矢嶋楯子は何で有名？他方、5月21日に観た『オードリー・ヘプバーン』(20年)も一種の偉人伝だが、既に知っている人の偉人伝であってもそれはそれなりに面白い。

しかし、グロリア・スタイネムって一体誰？寡聞にして私はそれを知らなかったが、伝

記映画は勉強の宝庫！本作によって、女性解放運動のパイオニアとして活躍した女性グロリア・スタインムの名前と実績をはじめて知ること。

■□■4人の女優が女の一生を熱演！■□■

映画でも大河ドラマでも偉人伝は一人の俳優が演じるのが原則だが、時として「若き日の主人公」と「壮老年期の主人公」を2人の俳優が分担して演じることがある。それは、どちらが良いという問題ではないが、本作では何と①子供時代のグロリア、②ティーン時代のグロリア、③20歳から40歳までのグロリア、④40歳以降のグロリアを、4人の女優が分担しているから、それに注目。本作がそんな手法をとったのは、女性解放運動を始めたグロリアには、①ストレートのロングヘア、②黒で統一された戦闘服、③美しい顔を隠すための大きなサングラス、という3つの特徴があったため、複数の女優でも“連続性”を保ちやすかったためだ。

20歳から40歳までのグロリアを演じたアリシア・ヴィキャンデルは、『リリーのすべて』（15年）（『シネマ38』43頁）、『エクス・マキヤ』（15年）（『シネマ38』189頁）、『ブルー・バイユー』（21年）（『シネマ50』221頁）等で私が強く印象に残した絶世の美女。それに対して、40歳以降のグロリアを演じたジュリアン・ムーアは、『めぐりあう時間たち』（02年）（『シネマ3』88頁）、『エデンより彼方に』（02年）（『シネマ3』165頁）、『アリスのままで』（14年）等の名作での熱演は多いものの、アリシア・ヴィキャンデルほどの美人とは言えない。しかし、2人が並んで写るチラシの写真をみると違和感はないから、すごい。

したがって、そこに「二大アカデミー賞女優がW主演で伝説のフェミニストに挑むーすべての女性が光り輝く、勇気と感動のエナジー・ムービー！」の謳い文句が並ぶと、なるほど、なるほど。また、子供時代のグロリアとティーン時代のグロリアを演じたライアン・キーラ・アームストロングとルル・ウィルソンは、そんな2人のイメージに近い女の子を選んだのだろうが、2人ともいかにもピッタリだ。

■□■原案は自叙伝！本作のキーワードは旅（ロード）！■□■

本作の原案になったのは、グロリアの自叙伝『旅する人』。彼女の自叙伝のキーワードを、旅（ロード）と設定したジュリー・テイモア監督は、女性解放運動のために怒涛のごとく駆け抜けたグロリアの一生を旅（ロード）で統一したうえ、年代の違う4人のグロリアを時系列を無視して登場させるという演出方法をとった。

冒頭の旅（ロード）は、40歳以降のグロリアが、年甲斐もなく（？）黒づくめの服で大型バイクを疾走させるシーンが続く旅（ロード）と、インドに留学した20代のグロリアがサリー姿で一列列車に乗り、インド人女性たちと親しげに会話を交わすものだ。

本作が面白いのは、グロリアをそんな旅（ロード）が似合う女にしたのは、1か所に定住せず、旅をしながら生活する父親（ティモシー・ハットン）の存在が大きかったことを主張していること。そんな父親の生き方は、母親は必ずしも肯定しなかったようだが、そ

んな父親のおかげで本作には一家全員が1台の車に乗って移動するシーンがたくさん登場する。その勢い余って(?)か、本作には多くの乗客を乗せて疾走する大型バスの中に、①子供時代のグロリア、②ティーン時代のグロリア、③20歳から40歳のグロリア、④40歳以降のグロリア、の4人が相乗りするシーンも登場するので、それに注目。もちろん、現実にはそんなシーンはあり得ないが、旅(ロード)をキーワードとし、4人の女優が4世代のグロリアを演じ分ける本作では、その演出がいかにもピッチリ!

■グロリアの行動力・転身力、交友力・指導力にビックリ■

本作は147分の長尺だが、4人の女優のリレー方式によるグロリアの偉人伝は飽きるどころがない。子供時代、ティーン時代のグロリアも、父親の自由奔放な発想と行動力の影響を受けているからそれなりの“自立した女”になっているうえ、20代でインドに留学しているグロリアの姿を見ると、学生時代の成長する姿として最高の女になっている。しかも、卒業後、彼女はすんなりタイムズ社に就職したうえ、女性ジャーナリストとして記事まで書かせてもらっているから、その社会人としての活躍も順風満帆だ。

もっとも、いくら自由の国アメリカでも、1960年から70年代の職場における男女差別はきつかったようだ。その結果起きてくるさまざまな事件の中で、本作が面白いのはそんな状況下で見るグロリアの行動力と転身力だ。一流のジャーナリストからバニーガールへの転身は容易にできないことだが、グロリアの行動力を持ってすれば、チョロイものらしい。さらに、ちゃっかりその潜入記を書くと、それが大ヒット。なるほど、これだけの行動力とこれだけの文章力を持ってすれば、大手から独立した異色のライターとしての生き方も可能だろう。

他方、後半目立ってくるのはグロリアの交友力と指導力。当時最前線で女性差別と闘っていたリーダーであるドロシー・P・ヒューズ(ジャネール・モネイ)やベラ・アブツグ(ベット・ミドラー)と知り合い、交流を深めていくと、たちまちグロリアもその方面で指導力を発揮していくことに。

■意外にも、しゃべるのは苦手。それをどう克服?■

グロリアが女性解放活動を始めていく中で露呈したのが、しゃべるのが苦手という意外な弱点。もっとも、これは弁護士の業界でもよくあることで、しゃべるのも書くのも得意という弁護士は少なく、どちらか一方のみという弁護士が多い。私は学生運動時代にアジ演説とピラ書きに明け暮れていたため両方とも得意だが、グロリアはジャーナリストとして書くことばかりに集中していたため、しゃべりは全然ダメだったらしい。しかし、それでは女性解放運動のリーダーにはなれないから、さあ、彼女はどうやって、それを克服していくの?

■人工妊娠中絶の権利は?今なぜ全米は真っ二つに?■

5月23日はバイデン大統領と岸田文雄総理との日米首脳会談の話題で持ち切り。ロシアによるウクライナ侵攻以降、バイデン大統領の対外的活動の報道が激増したが、今アメ

リカ合衆国内では、人工妊娠中絶の権利を巡って賛否が真っ二つに分かれる事態になっている。その発端は、中絶の権利を認める根拠になっている1973年の最高裁の判例を、過半数の最高裁判事が覆そうとしているためだ。私は、「連邦最高裁判決の草案がリークされ、中絶を合衆国憲法上の権利だと認めた1973年の『ロー対ウエイド判決』が、約半世紀ぶりに覆される公算が大きくなっている」、との新聞報道を見てビックリ！なぜアメリカで今そんなことが起きているの？

それを含めて、妊娠中絶是非の論点整理を各自でしっかりやってもらいたいが、言うまでもなく、キリスト教(カトリック)は人工妊娠中絶を禁じていたから、それを認める権利は長く苦しい女性たちの闘いによって獲得したものだ。本作では、自分自身も人工妊娠中絶を経験したグロリアが、その権利を求める闘いの重要性を説き、そのために先頭に立って闘う姿が登場する。したがって、もし彼女が今の全米の騒動を見たら・・・？

■□■ラストは2017年。80歳を超えた彼女の演説は？■□■

1960年から70年代のアメリカには“ウーマンリブ”という言葉が生まれたが、その後もセクハラやジェンダー等々の新語が登場！黒人差別反対運動と共に女性差別反対運動は急速に進展した。そこにグロリアたちの大きな貢献があったことは明らかだが、本作ラストを飾るのは、2017年にワシントンD.C.で行われたジェンダーに基づく差別や暴力に反対するアクション「ウィメンズ・マーチ」の映像。そして、そこには80歳を過ぎたグロリアが登場し、50万人もの聴衆の前で力強いスピーチをするので、それに注目！

彼女が残した名言はたくさんあるそうだが、その中で最も有名なものは、「私たちの闘いはマラソンでなく、リレーである。」というもの。なるほど、なるほど。その言葉の含蓄は深い。本作に見るグロリアの生きざまと共にその言葉の意味をしっかり考えたい。

2022(令和4)年5月25日記